

- ◆企画名 2025年度関西大学ピア・コミュニティ活動報告会  
日程 2026年2月27日 9:15～16:30  
場所 関西大学 千里山キャンパス 第2学舎4号館BIGホール100  
参加者数 44名(うち、ピア・サポーター14名、研修生5名、本学教職員14名、他大学生10名、他大学教職員1名)

#### 目的

- ・2025年度の活動を振り返り、成果や反省等を共有することで、今後に生かすこと。
- ・他コミュニティの活動状況を把握し、ピア・サポーター・研修生同士の交流を深めること。
- ・他大学との交流、他大学の活動の報告を通して、新たな気づきや発見を得て、ピア・サポートの在り方を改めて見つめ直すこと。
- ・他大学との交流を通じピア・サポート活動における大学の枠組みを越えた繋がりを形成すること。

#### 内容

##### ○概要

- 09:15～09:30 集合、会場準備  
09:30～09:45 受付開始(9:30頃から)、他大学正門集合  
09:45～10:00 受付実施中、他大学正門→会場移動  
10:00～10:15 開会式(15分)  
10:15～10:20 準備  
10:20～11:35 関西大学ピア・コミュニティ活動報告(75分)  
11:35～11:40 準備  
11:40～12:00 他大学活動報告(20分)  
12:00～12:05 午後のプログラム説明(食堂利用等)→グループ分け(5分)  
12:05～12:15 会場から凜風館移動(10分) グループごとに移動  
12:15～13:25 ランチ懇親会(70分)  
13:25～13:55 キャンパスツアー(30分)  
13:55～14:00 休憩(5分)  
14:00～16:15 他大学交流会(135分 ※10分間の休憩込み)  
16:15～16:30 閉会式(15分)

##### ○詳細

##### ■開会式(15分)

代表学生開会挨拶、学生センター副所長のご挨拶、スケジュール説明

##### ■ピア活動報告(75分)

- ・運営本部による組織説明(5分)
- ・運営本部活動報告(10分)
- ・KUブリッジ活動報告(15分)
- ・KUコアラ活動報告(15分)
- ・KUSP活動報告(15分)
- ・全体まとめて質疑応答(15分)

##### ■他大学活動報告(20分)

- ・大阪経済大学の活動報告(15分+質疑応答5分)

##### ■他大学交流会(135分 ※10分間の休憩込み)

テーマ:「ピア・サポート活動に対する学内外の認知度を向上させるために、SNSを味方につけるには」

- ・グループ内アイスブレイク
- ・意見交換

- ・各大学の SNS 改善コンサルワーク
- ・休憩（10分）
- ・戦略づくりワーク
- ・全体共有
- ・めざしたい発信の一言まとめ

■閉会式（15分）

学生センター所長のご挨拶、代表学生閉会挨拶

**効 果**

- ①活動内容の共有・相互理解
- ・他大学や他のコミュニティの活動内容や運営方法を知ることができ、今後の活動への良い刺激や学びを得ることができたこと。
  - ・規模や目的が異なる団体でも、抱える悩みが同じであることに気づけたこと。
- ②学生同士の交流（ランチ懇親会）
- ・話題が尽きないほど、参加者間で活発に交流できたこと。
  - ・話題カードのおかげで会話が弾み、人見知り同士でも困ることがなかったこと。
- ③SNS 運用に対する気づき（他大学交流会）
- ・Instagram の運用について、貴重な情報や新たな知見を得ることができたこと。
  - ・SNS 運用に対するモチベーションが向上したこと。

**改 善 点**

- ①ランチ懇親会における進行と準備
- ・進行役や時間管理が十分に共有・徹底されておらず、班によっては大阪経済大学のメンバーが 進行する場面があったこと。
  - ・自己紹介シートやミッションの使用法、完了基準が不明確であったこと。
  - ・筆記用具の数が少なく、書くのを待つ人がいたこと。
- 事前に進行役は KUSP のメンバーが行うこととしていたが、周知が不徹底であり、進行の確認等も行っていなかったことが要因として考えられる。ランチ懇親会も含め進行役を決めることや話題カードの作成のみに留まらず、実際に当日十分に機能するかをリハーサル等で確認し、準備を徹底する。  
また、KUSP に任せきりにするのではなく、運営本部として適切に関与すべきであった。
- ②キャンパスツアーにおける運営
- ・参加者と案内者の距離が離れてしまい、統括しきれていない様子が見られたこと。
  - ・メガホンの声が通らない時があったこと。
- リハーサル等で十分に事前確認ができていなかったことや過去の反省点が生かされていなかったことが要因として考えられる。事前に考えられる課題点に対して、リハーサル等も通じ事前に対応策をとっておくべきだった。
- ③プログラム構成（他大学交流会）
- ・昼食後やツアー後の約 1 時間の説明では眠気が生じやすく、内容の理解が十分でなくなる可能性があったこと。
  - ・レクチャーの時間が不足しており、SNS 運用の実践的な内容（投稿マナー、インプレッシブな投稿とは何かなど）を学びたかったという意見があったこと。
  - ・発表後、自団体ですぐ話し合う機会があれば、実行に移すのが早くなるという提案があったこと。
- 事前の準備の段階で、こういった内容を聞きたい人が多いのか等のアンケートを行ったりしてもよかったのかもしれない。また、準備を職員に頼ってしまったため、運営本部としてどのような内容にしたいのか、学生目線での内容構成を検討しきれていなかった。

#### ④準備・全体を通して

- ・前後の席で動かすことができない座席配置のため、グループワーク時のコミュニケーションが取りづらかったこと。
  - ・全体的にイベントが少し長く感じられたこと。
  - ・交流する他団体がもうひとつくらいあれば、意見交換がより多様化するのではないかという意見があったこと。
- 計画段階から、会場やトータルのスケジュールについて、柔軟な検討を行ってもよいかと思う。
- また、結果として参加大学が大阪経済大学のみとなってしまったため、今後はより幅広く呼びかけを行う必要があると感じた。併せて、どのような大学を対象とし、参加を呼びかけたいのか、またピア・サポート活動に通じる取り組みを行っている団体など、募集の間口を広げて検討することも一つの案であると考え。
- ・準備を学生主体で行ったとはいえないこと。
  - ・実際にいくつかコミュニティが分担した内容があったものの、コミュニティ間での情報共有が不十分であったこと。
  - ・リハーサルに参加できなかったメンバーもおり、事前に資料による共有がされていたにも関わらず、当日の流れを把握していないことがあったこと。
  - ・活動報告や質疑応答の場所や方法が十分詰められていなかったこと。
- 体制的に困難な面があったものの、当事者意識を持ち自ら役割を探る姿勢をもつことが必要と感じる。
- また、リハーサル時点で入念に確認するなど、事前に当日の動きを十分に想定し準備をしておくべきだった。

#### 感 想

参加者アンケートの結果、ポジティブな感想が多く寄せられた。今後の活動への意欲やさらなる交流を望む声も多く、総じて本報告会の目的は達成できたと評価できる。一方で指摘された課題点については真摯に受け止め、今後の改善に努める。

今年度は運営本部の体制が厳しい状況にあり、十分な機能を発揮しづらい中であつたが、無事に報告会を実施できたことに安堵している。協力いただいた関係各位には感謝の意を表す。

そうした中で、当日の各コミュニティの活動報告や大阪経済大学の活動紹介では、趣向を凝らした完成度の高いスライド発表が行われ、活発な質疑応答が交わされた。また、他大学交流会はSNSのさらなる有効活用を考える貴重で有意義な機会となり、今後の活動へのポジティブな効果が期待される。

反省点もあるが、当日は無事に進行でき、参加者からもポジティブな感想を得られた。今回の反省をしっかりと活かしつつ引き続き活動を行っていききたい。